

東京証券取引所 スタダード市場

証券コード：6405

2026年3月期 第2四半期決算説明会



2025年 11月 21日 | 鈴茂器工株式会社

目次

1. 2026年3月期 第2四半期連結決算概要	-----	P.3 ~ P.14
✓ 業績サマリー		
✓ 前期比 業績概要		
✓ 国内・海外 売上高比率		
✓ 国内・海外 四半期売上高推移		
✓ 国内 業態別自社機売上高		
✓ 海外 地域別売上高		
✓ 前期比 営業利益		
✓ 売上高・営業利益の推移		
✓ 連結貸借対照表		
2. 2026年3月期 通期業績見通し	-----	P.15 ~ P.19
3. トピックス	-----	P.20 ~ P.28

2026年3月期 第2四半期連結決算概要

2026年3月期 第2四半期連結決算：業績サマリー

売上高
7,007百万円
△**11.0**%

国内 **4,697**百万円 △**9.9**%

海外 **2,310**百万円 △**13.3**%

営業利益
79百万円 △**92.4**%
営業利益率
1.1% △**12.2**pp

■ 前期比増減率

■ 売上高

- 国内は2Qに入り大手ホテルチェーン店へのご飯盛付けロボットFuwaricaの新規導入が本格化する等、新規開拓は進捗しているものの、前期4Qから続くコメ価格高騰の事業者への影響や、大手チェーン店の入替需要の一巡等により減収
- 海外は北米における連結内部消去の影響や、大手チェーンへの納品計画の後ろ倒しにより減収

■ 営業利益/営業利益率

- 売上高の減少に加え、中期経営計画「Next 2028」で掲げた事業基盤構築に伴う人員増強、人事制度の改定等による人的投資を中心とした先行投資、資本業務提携解消に伴う想定外のコストが発生したことで販管費が増加し、大きく減益

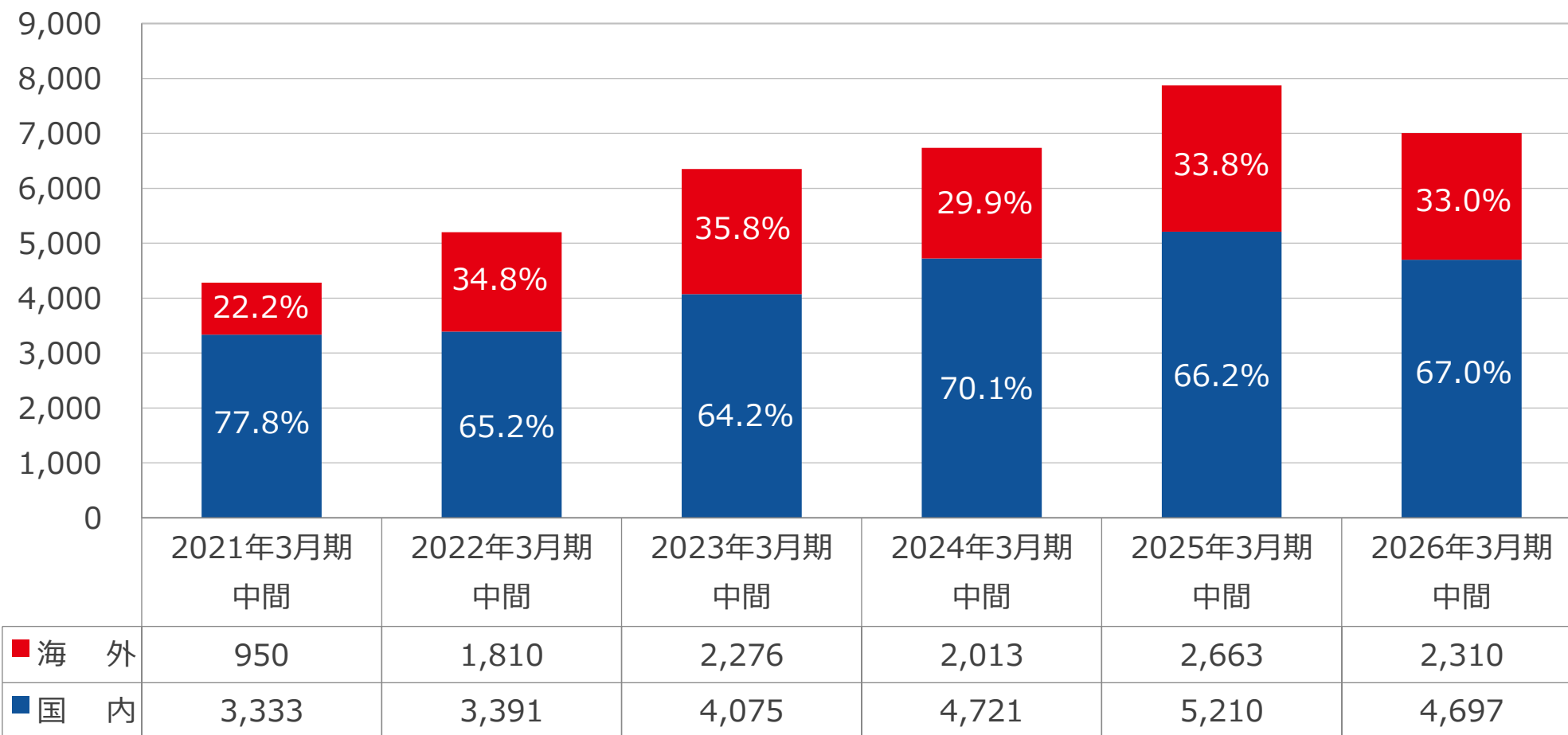
2026年3月期 第2四半期連結決算：前期比 業績概要

(単位：百万円)

	2025年3月期 2Q累計実績	2026年3月期		
		2Q累計実績	増減額	前期比
売上高	7,874	7,007	-866	-11.0%
国内	5,210	4,697	-513	-9.9%
海外	2,663	2,310	-353	-13.3%
売上原価	3,884	3,631	-253	-6.5%
売上総利益 (利益率)	3,989 (50.7%)	3,376 (48.2%)	-613 (-2.5%)	-15.4%
販売費及び一般管理費 (販管費率)	2,938 (37.3%)	3,296 (47.0%)	+358 (+9.7%)	+12.2%
営業利益 (利益率)	1,051 (13.4%)	79 (1.1%)	-971 (-12.2%)	-92.4%
経常利益 (利益率)	1,092 (13.9%)	59 (0.8%)	-1,032 (-13.0%)	-94.6%
当期純利益 (利益率)	794 (10.1%)	50 (0.7%)	-744 (-9.4%)	-93.6%

2026年3月期 第2四半期連結決算：国内・海外 売上高比率

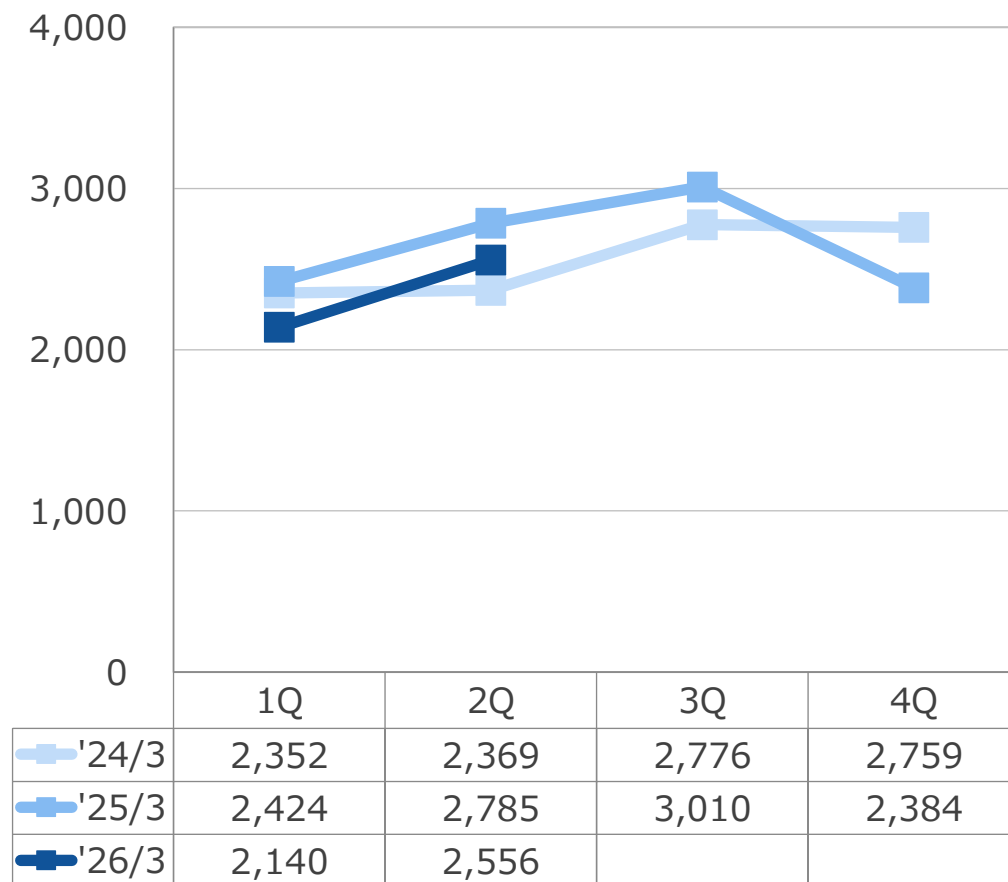
売上高 (単位：百万円)



2026年3月期 第2四半期連結決算：国内 四半期売上高推移

(単位：百万円)

■ 国内売上高



国内の概況

【外部環境】

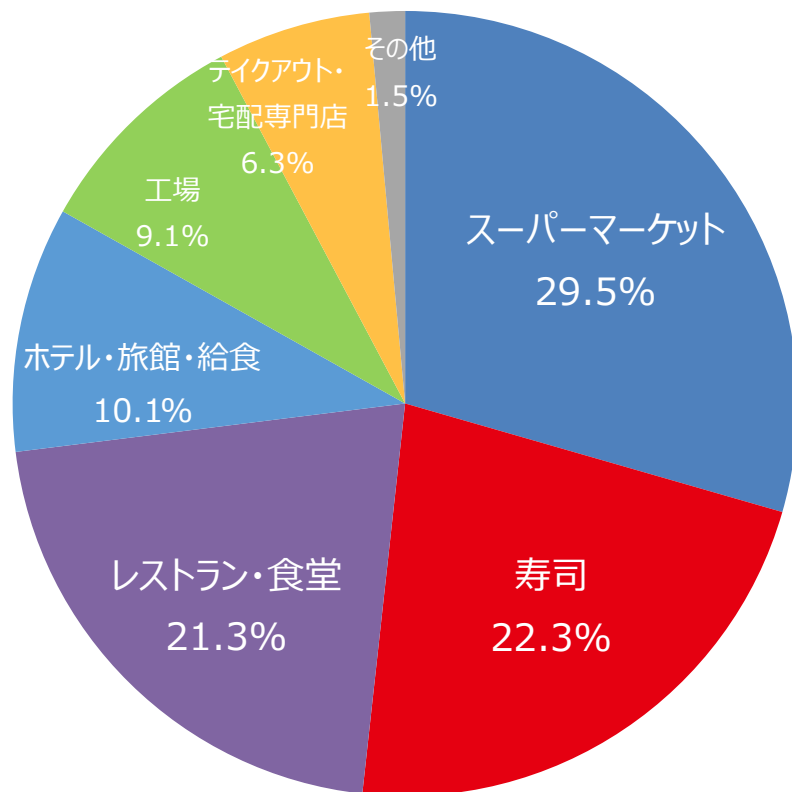
- ・ インバウンド需要の増加や人手不足を背景とした省人化ニーズは継続
- ・ 前期4Qから続くコメ価格高騰による事業者の設備投資計画の延期等への影響が継続しているが、下期徐々に回復する見通し

【売上高の動向】

- ・ 上期はご飯盛付けロボットFuwaricaの新規顧客開拓は進捗しているものの、寿司業態やレストラン・食堂業態における大手チェーン店の入替需要の一巡や、スーパーマーケット業態における増設需要の減少等により減収
- ・ 下期は、9月に発売した寿司ロボットの新製品による入替の促進や、ご飯盛付けロボットFuwaricaによる新規顧客開拓を引き続き進めていくことで売上を積み上げていく

2026年3月期 第2四半期連結決算：国内 業態別自社機売上高

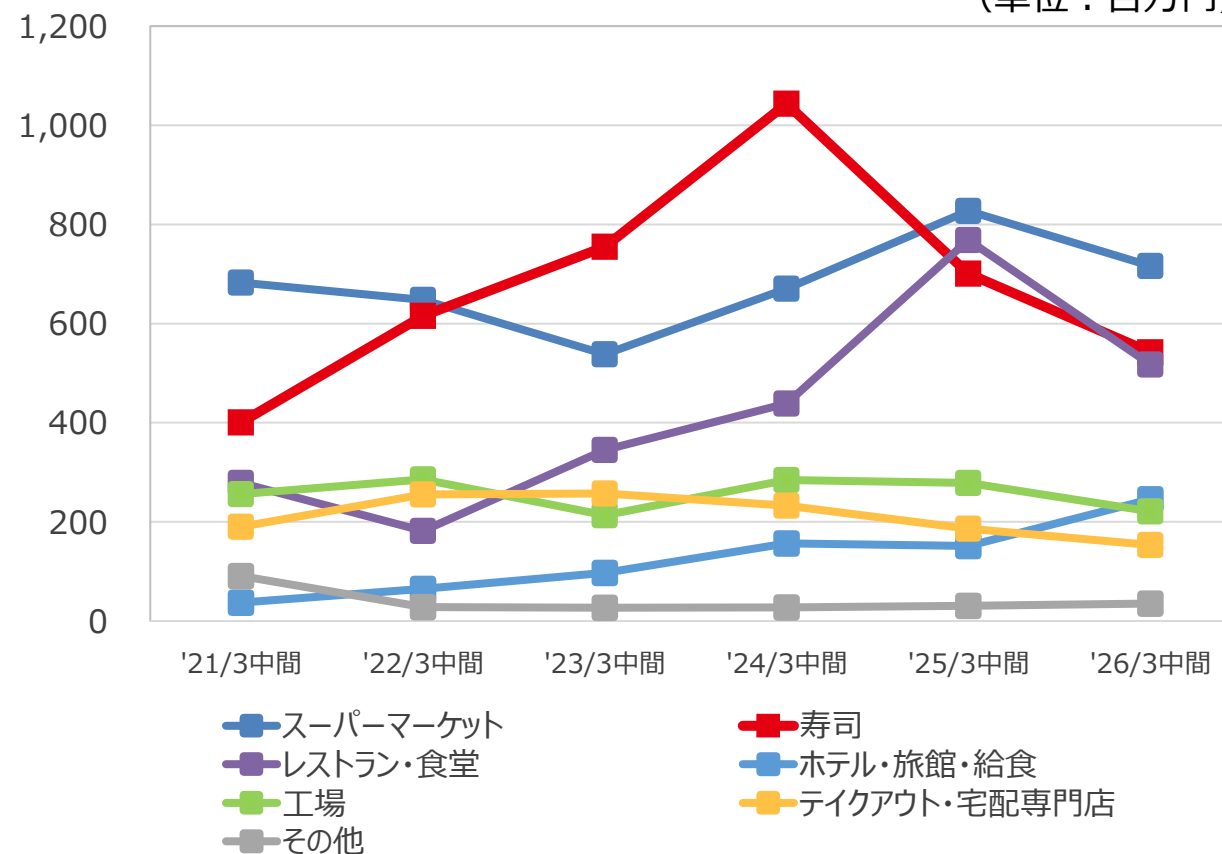
■ 国内 業態別売上高比率
(2026年3月期中間)



※ 業態別売上高比率は国内自社機売上高に基づき算出

■ 国内 業態別売上高推移

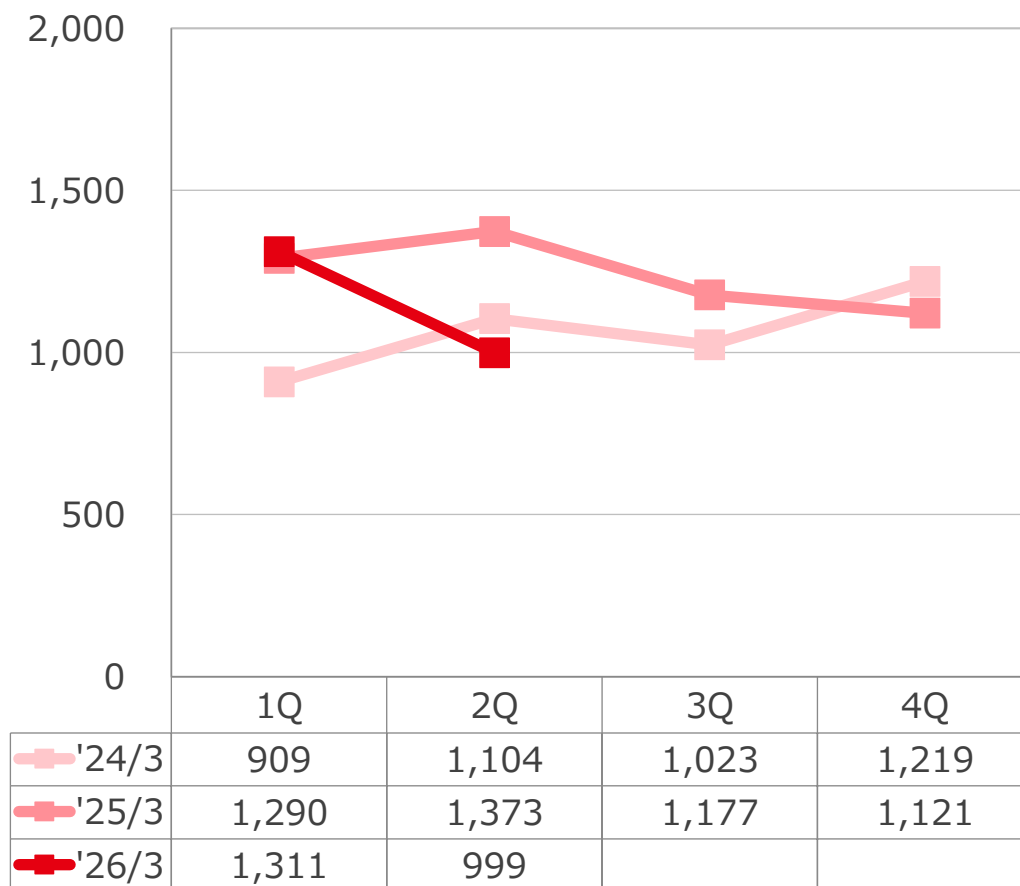
(単位：百万円)



2026年3月期 第2四半期連結決算：海外 四半期売上高推移

(単位：百万円)

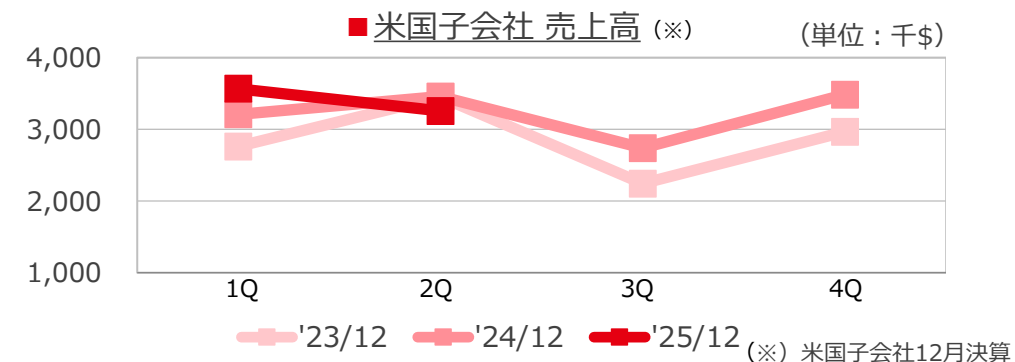
■ 海外売上高



海外の概況

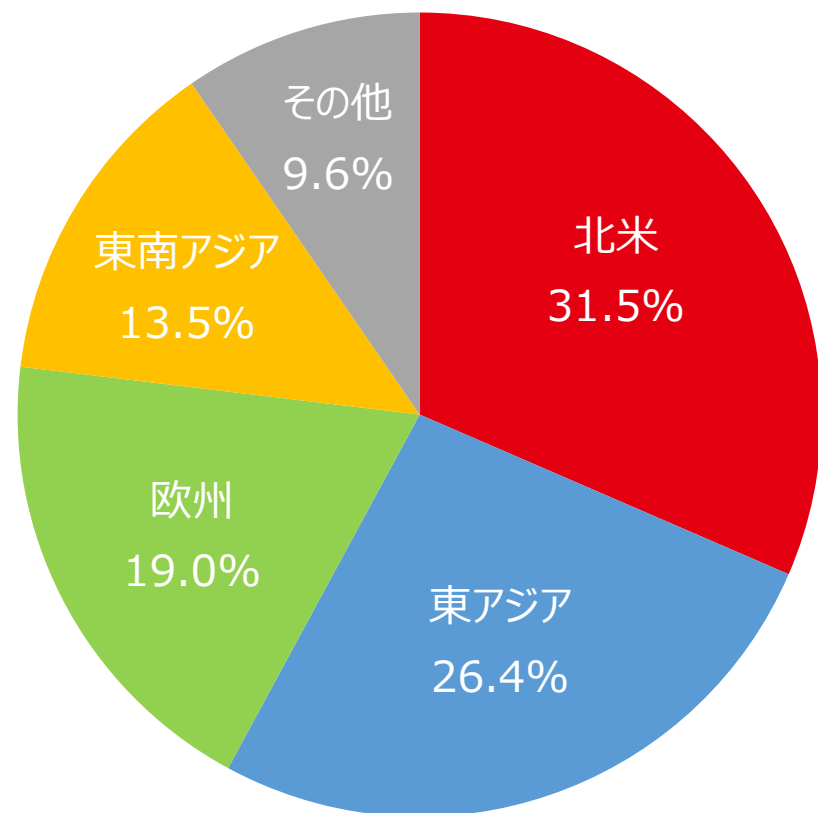
【地域別の動向】

- 北米は連結内部消去の影響金額が1Qより大きくなり減収、市場における機械化や省人化の需要は高い水準で推移しているものの、大手チェーン向けの大型案件の導入ペースが当初計画より遅れており、想定より低調に推移
- その他地域について、欧州は新製品のシート出し海苔巻きロボットの寿司テイクアウトチェーンへの導入拡大や、販売店再編推進により下期良化見込み。東アジアは日系企業を中心とした需要取り込みにより、引き続き、売上増を目指す



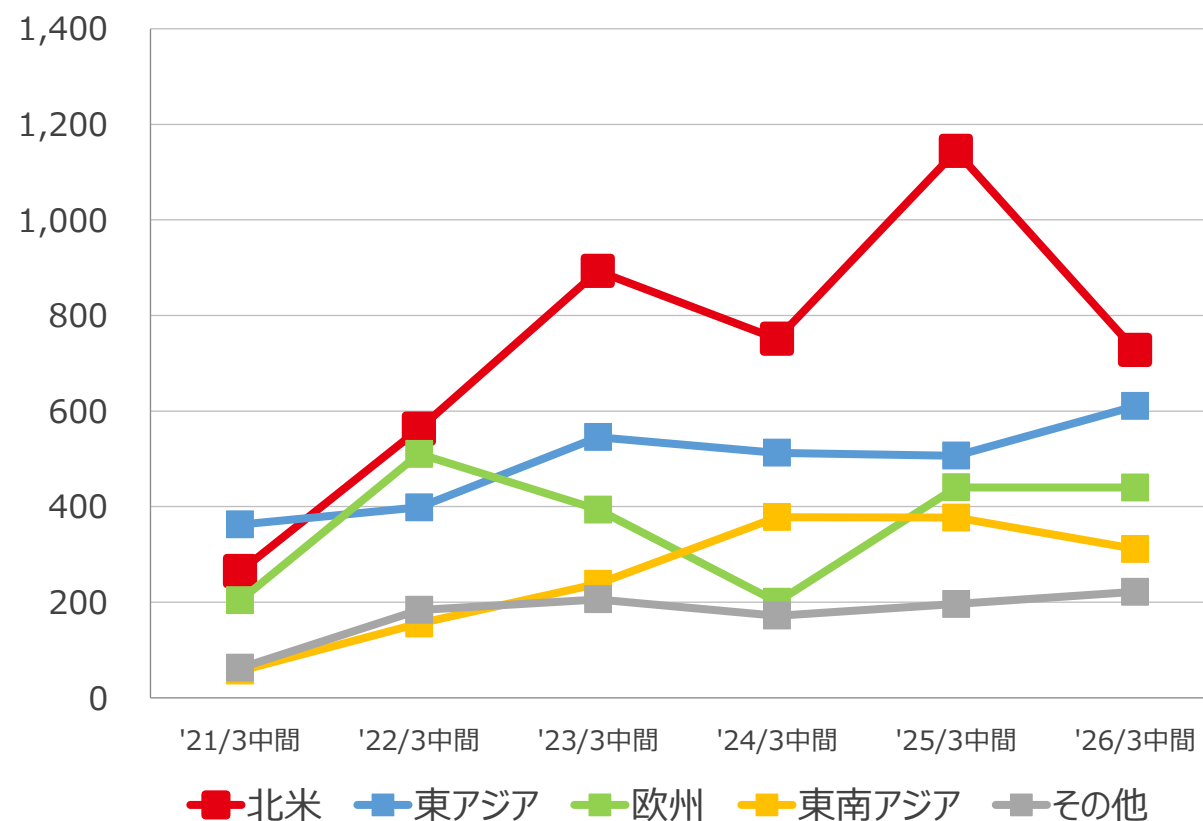
2026年3月期 第2四半期連結決算：海外 地域別売上高

■ 海外 地域別売上高比率
(2026年3月期中間)



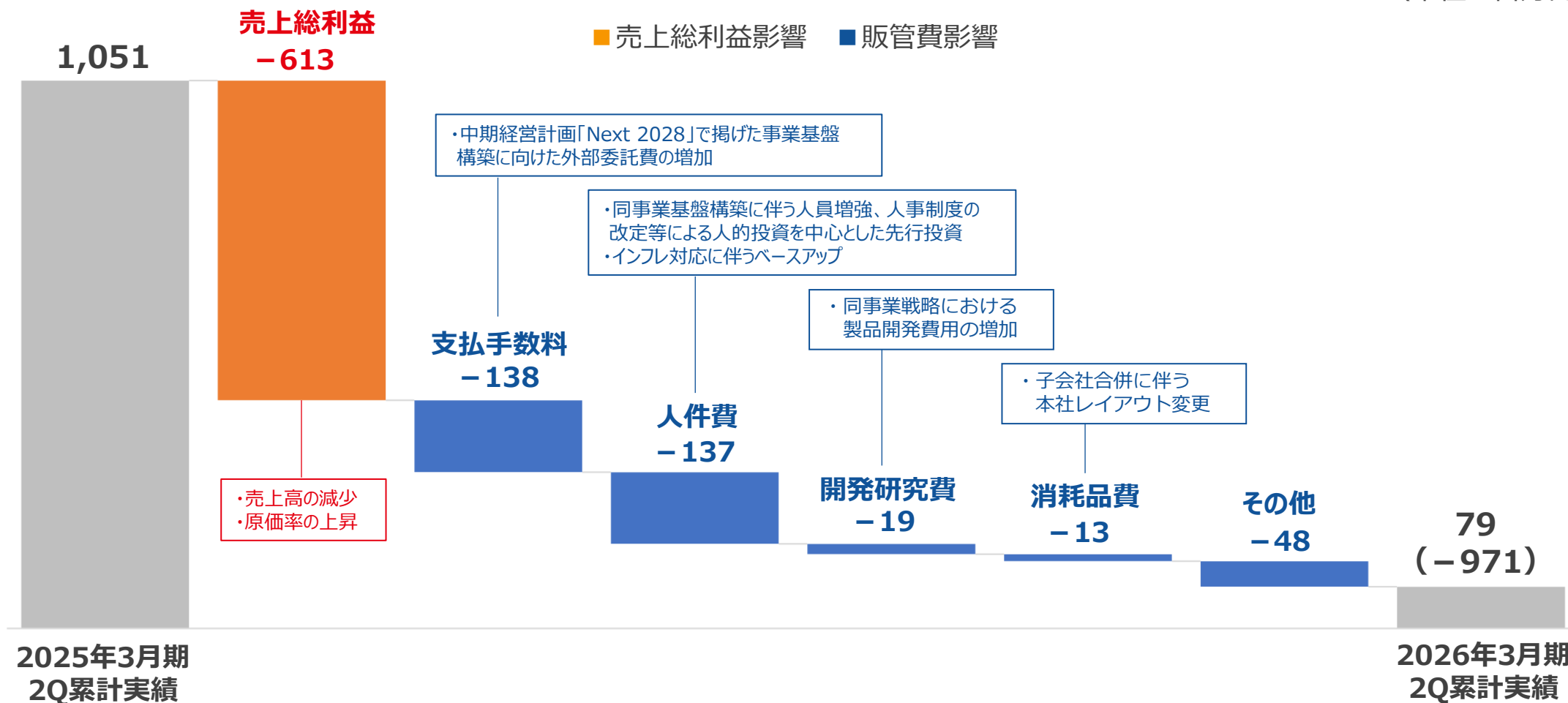
■ 海外 地域別売上高推移

(単位：百万円)



2026年3月期 第2四半期連結決算：前期比 営業利益

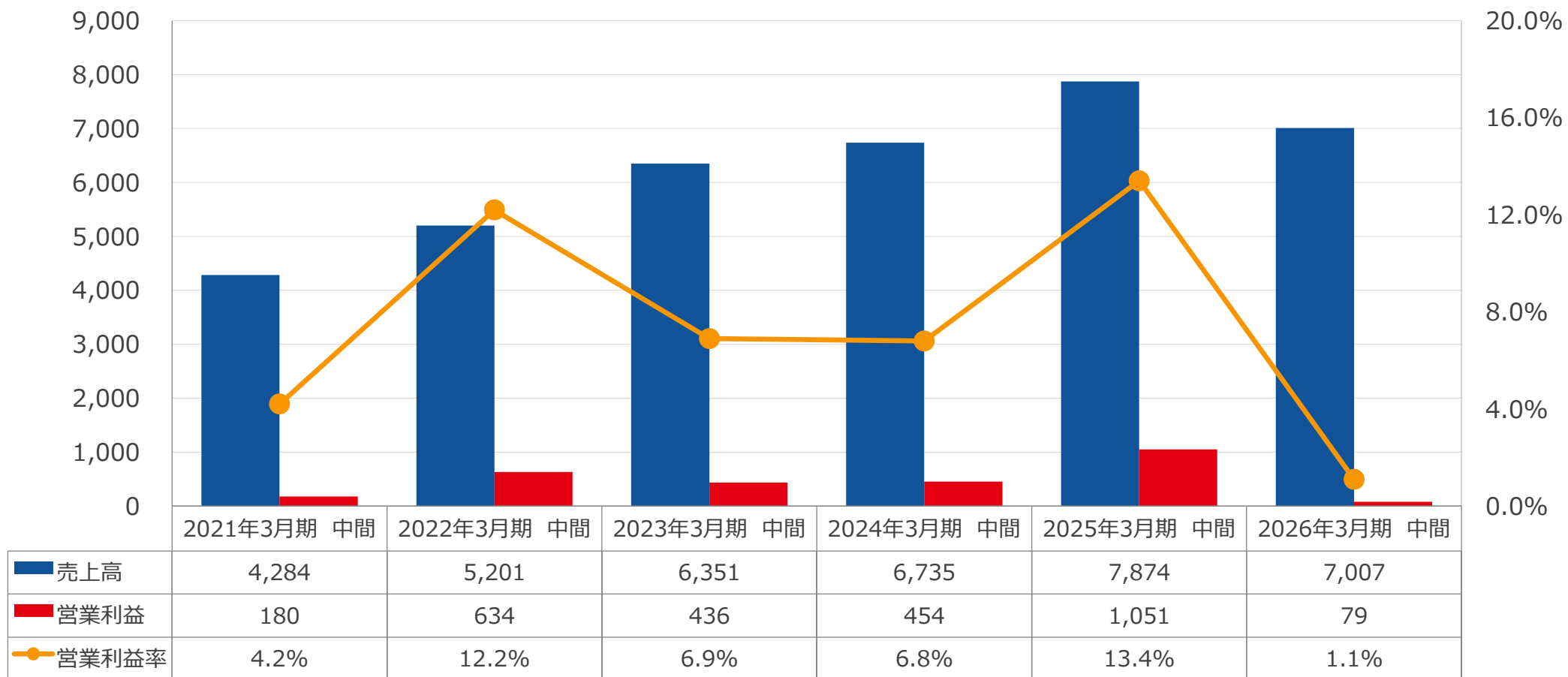
(単位：百万円)



2026年3月期 第2四半期連結決算：売上高・営業利益の推移

売上高 / 営業利益
(単位：百万円)

営業利益率



2026年3月期 第2四半期連結決算：連結BS 資産の部

(単位：百万円)

	2025年3月期 期末		2026年3月期 中間		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	前期比
流動資産合計	10,841	55.7%	9,739	50.6%	-1,101	-10.2%
現金及び預金	5,597	28.7%	4,461	23.2%	-1,135	-20.3%
売上債権	2,039	10.5%	1,816	9.4%	-222	-10.9%
たな卸資産	2,819	14.5%	3,017	15.7%	+198	+7.0%
その他	385	2.0%	443	2.3%	+58	+15.0%
固定資産合計	8,630	44.3%	9,498	49.4%	+867	+10.1%
有形固定資産	7,028	36.1%	7,841	40.8%	+813	+11.6%
無形固定資産	518	2.7%	514	2.7%	-4	-0.8%
投資その他の資産	1,084	5.6%	1,142	5.9%	+58	+5.4%
資産合計	19,471	100.0%	19,238	100.0%	-233	-1.2%

2026年3月期 第2四半期連結決算：連結BS 負債純資産の部

(単位：百万円)

	2025年3月期 期末		2026年3月期 中間		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	前期比
負債合計	3,502	18.0%	6,810	35.4%	+3,307	+94.4%
流動負債	2,007	10.3%	3,103	16.2%	+1,095	+54.5%
固定負債	1,494	7.7%	3,707	19.2%	+2,212	+148.0%
純資産合計	15,969	82.0%	12,427	64.6%	-3,541	-22.2%
株主資本	15,423	79.2%	12,048	62.6%	-3,375	-21.9%
その他包括利益累計額	505	2.6%	343	1.8%	-161	-32.0%
非支配株主持分	39	0.2%	35	0.2%	-4	-11.0%
負債純資産合計	19,471	100.0%	19,238	100.0%	-233	-1.2%

2026年3月期 通期業績見通し

2026年3月期 通期業績見通し：連結損益見通し

(単位：百万円)

	業績予想 (2025/5/13)			業績修正 (2025/10/31)			
	期初計画	構成比	前期比	修正見通し	構成比	期初計画比	前期比
売上高	17,870	100.0%	+14.8%	15,450	100.0%	−13.5%	−0.8%
国内	11,195	62.6%	+5.6%	10,035	65.0%	−10.4%	−5.4%
海外	6,675	37.4%	+34.5%	5,415	35.0%	−18.9%	+9.1%
営業利益	2,000	11.2%	+5.8%	610	3.9%	−69.5%	−67.7%
経常利益	2,045	11.4%	+5.0%	610	3.9%	−69.7%	−68.7%
当期純利益	1,495	8.4%	+2.2%	410	2.7%	−72.6%	−72.0%

2026年3月期 通期業績見通し： 配当予想

	2025年3月期	2026年3月期	
	実績	期初計画	修正見通し
1株当たり当期純利益	113.09円	115.54円	34.62円
配当（合計）	34.00円	35.00円	35.00円
中間	15.00円	15.00円	15.00円
期末	19.00円	20.00円	20.00円
配当性向	30.1%	30.3%	※ 109.1%

※ 2025年8月12日に自己株式1,797,500 株を取得した影響

2026年3月期 事業環境：弊社顧客（国内）

国内	リスク	事業者課題	自社製品需要
	● 原材料価格の高騰 為替影響、天候不順の常態化、 海外情勢不安の継続等 ● 物価・人件費の高騰 為替影響、時給単価アップ等 ● レピュテーションリスク	《 業界共通 》 ● 人手不足解消 ● レイバーコスト削減 ● 食材ロス削減 ● 品質安定化・異物混入対策 ● 市場再編（統廃合）	ロボット導入による ● 人手不足の補完 ● 省人化（生産性向上） ● ロス低減 ● 品質安定・向上 ● 差別化へリソース集中 システム導入による ● オペレーション効率化 ● 管理コスト低減 ● 省人化（生産性向上） ● 品質安定・向上
国内	機会	《 小売業界 》	
	● インバウンド需要の増加 ● 国内旅行の回復 ● 消費スタイルの変化 ● オンライン販売の増加	● 高付加価値商品の販売 ● 薄利多売型店舗への転換 ● 食材加工拠点の設置 ● 生産能力の向上	

2026年3月期 事業環境：弊社顧客（海外）

海外	リスク	事業者課題	自社製品需要
	● 原材料価格の高騰 ● 不安定なサプライチェーン ● エネルギーコストの増加 ● 地政学リスク ● 人件費高騰 ● 各国の景気動向	《 北米・欧州 》 ● 参入障壁低減（現地企業） ● 品質安定化 ● 人手不足解消 ● レイバーコスト削減 ● 食材ロス削減	ロボット導入による ● 技術習得の省略 ● 品質安定・向上 ● 人手不足の補完 ● 省人化（生産性向上） ● ロス低減 システム導入による ● オペレーション効率化 ● 管理コスト低減 ● 省人化（生産性向上） ● 品質安定・向上 これまでの経験による ● 日系企業進出サポート

機会
● 日本食のグローバル化 ● 海外進出の好機 ● 旅行需要の回復・拡大

《 アジア 》 ● 参入障壁低減（現地企業） ● 品質安定化 ● 人手不足解消 ● 食材ロス削減 ● 生産能力の向上（工場）

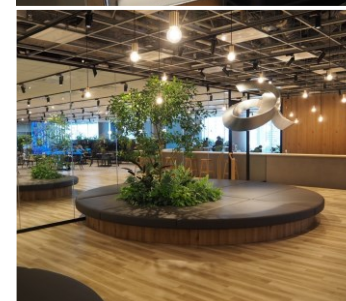
トピックス

トピックス：製品導入事例

【食に関わる様々なシーンで“ご飯盛付けロボットFuwarica”が活躍中】



外食：カレーショップC&Cダイニング様



社員食堂：エイベックス様

トピックス：製品導入事例

【食に関わる様々なシーンで“ご飯盛付けロボットFuwarica”が活躍中】



ホテル：椿山荘東京様



学生食堂：中央大学様

トピックス：スズモフェア2025東京『「こえ」と「こたえ」を結ぶ』の開催

【 10月22,23日に池袋サンシャインシティにてスズモフェアを開催 】

～新製品や協力企業とのコラボ展示を実施～



小型シャリ玉ロボット SSN-KTA

シャリ玉ロボットは現場の「こえ」にこたえ、残量検知機能や
「おいしさ」と「使いやすさ」の更なる進化を実現



のり巻きカッター SVC-ATD

自動のり巻きカッターは安全性の向上に加えて
自動降下機能などさらに作業性をアップ

トピックス : スズモフェア2025東京『「こえ」と「こたえ」を結ぶ』の開催

【 外食店舗向けソリューションの新製品 】 ～ソリューションプロバイダを目指し様々な開発を継続～



AI画像認識システム Visレジ

AIにより、食器やトレーの食材内容を数秒で認識し、自動でPOSレジへ登録。経験の浅いスタッフでも迅速な会計業務を行うことができ最適な人員配置が可能に



自動配席AIシステム ARESEA

今まではベテランスタッフにまかせるしかなかった、お客様の人数に合わせた最適なテーブル配席をAIを組み込むことによりシステム化を実現

トピックス：スズモフェア2025東京『「こえ」と「こたえ」を結ぶ』の開催

【『酢合わせ同時炊飯機能』搭載炊飯器の記者発表会】
～象印マホービン株式会社と共同開発 業界初の機能を搭載し来春発売～



約3年かけて象印マホービン社と共同開発。より美味しい酢飯炊飯を実装するために、専用の酢も開発。また、通常炊飯の品質を安定させるため、水量補正機能も実装



「シャリ炊き三年、合わせ五年、握り一生」と言われるほど熟練の技が必要とされてきた『炊飯』と『酢合わせ』を本機は1台で完結。従来の調理工程を大幅に削減

トピックス：新たな取り組み

【 寿司ロボットのカプセルトイ発売 】

～SUZUMOブランドのファン創出と認知拡大～



株式会社トイズキャビン社との企業コラボにより開発した
“寿司ロボット”のカプセルトイを2025年8月に発売。
SNS上では組立動画や遊んでいる様子が数多く投稿

【 市立保育所で完全給食の実現 】

～埼玉県鶴ヶ島市が取り組む地域貢献事業～



企業版ふるさと納税の制度を活用し、鶴ヶ島市内の2か所の
市立保育所にご飯盛付けロボットFuwaricaの寄附が実現

※ 画像は鶴ヶ島市提供

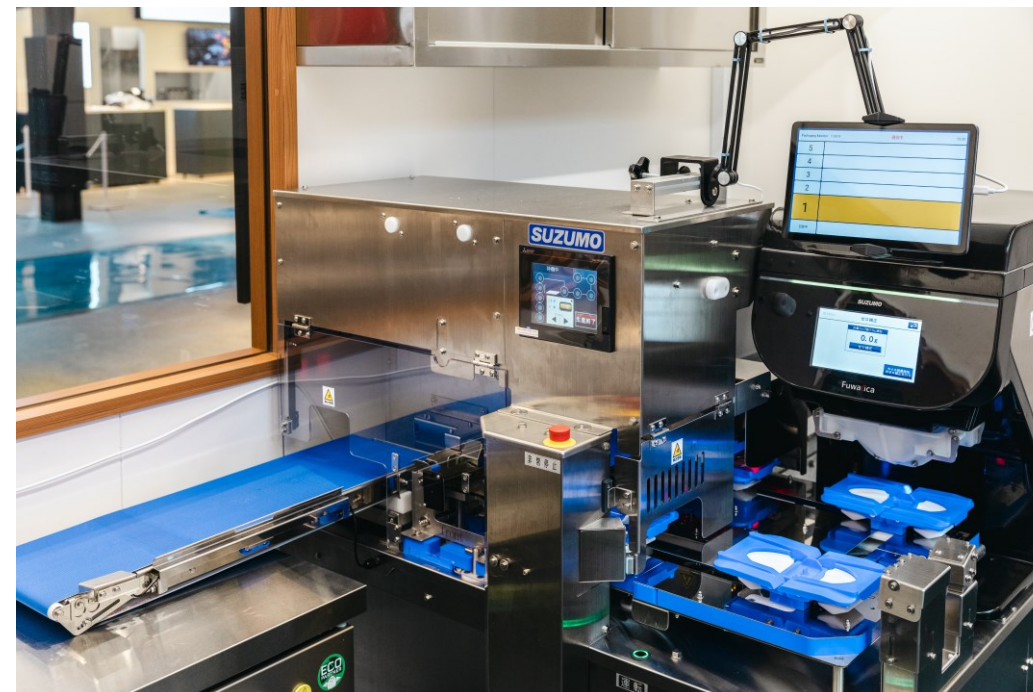
トピックス : 新たな取り組み

【 大阪・関西万博に象印マホービン社が出店した“ONIGIRI WOW!”で弊社製品が活躍 】

～象印マホービン社と連携しオーダーから製造までをほぼ自動化～



大阪・関西万博の開催期間において全52種類のおにぎりを
販売（合計販売数は32万個以上）



象印マホービン社の「ごはんを炊く」技術と弊社の
「炊きあがったごはんを加工する」技術の連携により実現

トピックス：新工場（鶴ヶ島テックプラント）は2026年3月操業へ



- 生産キャパシティは現工場の2倍以上を目指す
- 生産方式は現在のセル生産からライン生産に変更し、生産性の改善に伴う原価低減に取り組む
- 主力の小型機をメインに生産し、量産体制を構築
- 現工場は主力以外の小型機および大型機を主に生産
- 今後の需要動向および財務状況を鑑み、次期建設を検討

所在地	埼玉県鶴ヶ島市太田ヶ谷地内（圏央鶴ヶ島インターチェンジ横）
敷地面積	36,137.78 m ²
延床面積	8,237.63 m ² （鉄骨造／地上2階）
投資額	約27億円（建物）※投資予算内で完成
資金計画	自己資金
操業時期	2026年3月（計画通りに操業予定）※着工 2024年11月、竣工 2025年10月



IR・取材等のお問い合わせ先

鈴茂器工株式会社 経営企画部

TEL 03-3993-1396 | **Email** ir-info@suzumo.co.jp

本資料の業績計画ならびに将来予測は現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。そのため諸要因の変化により実際の業績は大きく異なる可能性があります。